

随想

牛乳パックのリサイクルに思う

権平 栄

『物を大事にしてください』と言われて育った私は「捨てるよりはリサイクルを」と実践してきました。牛乳パックは生協を通して、アルミ缶や発泡スチロールのトレイはスーパーへ、空ビン空ビンポストへ、お菓子の空箱等も古新聞といっしょに回収業者へ……等々、ところが牛乳パックが山積みになっているニュースが報道されたり、ちり紙交換はさっぱりきてくれない。アルミ缶は回収してもスチール缶はお金を出さないと持って行ってくれないという状態です。リサイクルしたくてもできない状況になぜなってしまったのでしょうか。

現在、リサイクルはボランティアの人達によって支えられていて、日本の社会の中でリサイクルというシステムが確立していないのです。牛乳パックはリサイクルに適していないという学者すらいます。牛乳パックは他の古紙と違いビニールコーティングしてあり、手間もお金もかかる。また、今までの再生紙というのはより安く紙ができるから古紙を原料としていたのが、牛乳パックは捨てるのがもったいないという理由で再生されるようになった所にリサイクルの無理があると云うのです。

そんな時、以前より長女が牛乳パックからハガキを作りたいと言っていたのを思い出し、冬休みにハガキ作りに挑戦してみました。

1. 牛乳パックを切り開いたものを一晩水につけておきます。
2. 印刷されている面と内側のビニールコーティングをはがします。
3. 3cm角くらいに細かくちぎって、水と一緒にミキサーにかけます。
4. 細かくなった材料をザルに受け、水をきります。
5. さらにしっかり水をきり、15gずつ分けます。
6. 材料15gに水500ccと大豆粒くらいの洗濯のりを加え、ミキサーで1分間まぜます。
7. それを紙すき用のワクに流し込みます。
8. 少し置いてから新聞紙の上へ移し、スポンジ等で水をとりまします。
9. 自然乾燥して出来上がりです。牛乳パック1個から葉書が5、6枚できます。

この一連の行程の中でやはり一番大変だったのはビニールコーティングをはがす作業でした。とは言ってもゴミとして捨てられてしまうものから新たに製品ができるというのはとても嬉しいことです。長女も出来上がったハガキで時々手紙を書いています。

リサイクルの原点は再生利用ではなく「再利用」です。牛乳をはじめ醤油、ソース、ケチャップ、マヨネーズも昔のようにビンを利用できるようになるのが望ましいと思います。

しかし、現状を見る限り紙パックはリサイクルできるということでビンから紙パックへと切り替わりつつあります。その結果、残念なことに紙の消費は増えて来ています。

一方、再生紙の需要も増えてきているようです。再生紙100%のトイレットペーパーやティッシュペーパーの利用の伸びに伴い、山積み牛乳パックは減ってきているようです。静岡にある再生紙のみ作っている製紙工場では牛乳パックはいくらでもほしいと話していました。回収ルートが確立していない現在まだまだゴミとして捨てられているのが多いようです。物を大切にすること、物がゴミを減らすことにつながり、さらに地球環境を守ることもなっていくべきです。

今の日本では、地球上に限られた量しかない資源をどんどん使い、大量生産、大量消費し、大量のゴミを生みだしています。「たくさんのゴミが出たから、なんとか減らそう」としてリサイクルするところに行きづまりがあると思います。自分だけ山奥へ逃げ込むのではなく、私たちのライフスタイルを、意識を変えていかなくては、いけないのです。「始めからゴミを出さない、ゴミの出ない」生活を目指すべきです。

私は自分の子供達に、平和が大切なこと、農薬や食品添加物のことなどを教えてきました。最近、自分の子供だけでなく、もっと多くの子供達に「私達の思い」を、子供新聞を通じて伝えたいと思い、友人と仲間を集め始めました。

私達の方で、どの程度のことのできるのかは分かりませんが、牛乳パックのリサイクルに始まった活動の輪を広げて行きたいとおもいます。

(主婦・新潟市)